

ペトロプラス経営破たんにもみる欧州精製事業の苦境（サマリ）

石油グループ 井上 浩一

2012 年 1 月に欧州の独立系石油精製最大手ペトロプラス（Petroplus Holdings AG）が経営破たんした。本稿では、2000 年以降、石油メジャー等が手放した製油所を安く買収して効率的なオペレーションにより収益性を上げるというビジネスモデルで欧州石油精製業界に新風を巻き起こしたこの企業の破たんの原因と経緯を辿ることで、欧州石油精製業が直面している現状を検証した。そこには、従来からいわれてきた欧州の石油需要減少と精製能力過剰による精製マージンの低迷に加え、欧州域外からの石油製品の流入や EU 金融危機による企業の資金調達問題など、新たな要因もみることができる。現在の原油価格は、イラン問題次第ではもう一段の高値レベルに届くと予測されている。2011 年 11 月の第 3 四半期決算発表からたった 3 ヶ月弱でペトロプラスが企業破たんに陥った経営環境の厳しさは、欧州だけでなく各国の石油精製事業にもいえ、今後とも石油精製事業者は、難しい舵取りを迫られる状況が続くと考えられる。